

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 97 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 97 回 : 2019 年 10 月 4 日 (金) 13:30~16:45
2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711 会議室
3. 出席者
(出席委員) 高田主査, 橋本幹事, 佐藤 (吉), 牟田, 石田, 岩谷, 谷川, 池田 (芳),
佐藤 (輝), 黒岩, 塩田 (11 名)
(常時参加者) 濱口, 友澤, 藤崎, 不破, 佐藤 (遼), 村田 (根岸代理) (6 名)
(敬称略)
4. 配布資料
P4SC-97-1 第 96 回 L1PRA 分科会議事録 (案)
P4SC-97-2 標準策定五ヵ年計画 (2020 年度版案)
P4SC-97-3-1 内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 基準案
P4SC-97-3-2 内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 指針案
P4SC-97-3-3 内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 適用事例候補
5. 議事内容
 - (1) 出席者/資料確認
委員 11 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。
 - (2) 第 96 回議事録の確認
資料 P4SC-97-1 を用いて第 96 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければそのまま正式版とすることとなった。
 - (3) 標準策定五ヵ年計画
資料 P4SC-97-2 により, 2020 年度の標準策定五ヵ年計画について議論した。本案をベースに策定を進め, 検討の進捗は随時反映していくこととなった。
 - (4) L1PRA 標準統合性能化
資料 P4SC-97-3-1 から 3-3 により, L1PRA 標準統合性能化案について検討した。主な議論は次のとおり。

- ・基準「5.2.1 プラント情報の調査」では、品質確保標準での議論から、最新のプラント情報であることがポイントと考えられるため、関連部分も含めその趣旨を入れて修文する。また、これに対応して、PRA モデルの維持管理についての規定を新たに検討する。
- ・ISOにおいても品質管理とリスク管理が接近してきており、将来的には品質確保標準全体を引用していくことも考えられる。
- ・基準の各規定における箇条書きや表 2 の内容については、基準とすると制限されることも懸案し、個別の手法を制限しないよう使い易さも考慮して、基準とするか指針とするか全体のバランスを見て継続検討とする。
- ・基準「7.2.1.2 起回事象の確認」の第一文は、「……見落としがないか次の観点から確認する」に修文する。
- ・基準「7.2.3.1 起回事象発生頻度の推定」の第一文に「人的過誤事象を含む」旨を追記することで、第二文は削除する。
- ・基準「7.2.3.3 同定した起回事象の除外」の第一文は「……してもよい。」を「……できる。」とする。また、ただし書きは指針内容と考えられるため、指針に移設する。
- ・基準「8.2.1.2 判定条件の設定」の第一文は、更新した基準内容に合わせて「判定条件を設定する。」に修文する。同様に第二文においても「適用可能な範囲で現実的な条件」部分を削除し修文する。
- ・指針「7.1 一般事項（起回事象）」において、「起回事象を各 POS に同定」と停止時を念頭にした規定があるが、基準においては「評価対象とする POS ごとに起回事象を同定」としており、基準に整合する規定振りとする。
- ・指針「7.2.1 起回事象の選定」の b) 項において、確認に用いる事象が列挙されているが、そもそも ASME/ANS 標準では少なくともこれらの事象を含めるべきとしており、規定振りを見直す。
- ・指針「7.2.3 起回事象の発生頻度」の e) 項における (4) は停止時に限定した条件であるため、他の条件と区分する。

(5) スケジュール、その他

次回分科会は 11 月 15 日 PM の予定とする。次々回は 12 月 17 日 PM を候補とする。

停止時 PRA 標準の改定版が本日発行となり、講習会の開催について今後調整していく。出力運転時標準の引用により構成されているため、出力運転時と合わせての講習として検討する。また、産業界 PRA の専門家レビューに関する情報交換についても適宜調整していく。

以上